

ぎふ感染症かわら版

平成 27 年 12 月 4 日 岐阜県感染症情報センター（岐阜県保健環境研究所）



RSウイルス感染症が流行しています！ 小さいお子さんには特に気をつけたい感染症です。

RSウイルス感染症とは

RSウイルスによる呼吸器の感染症で、秋から冬にかけて流行します。
2歳までにほとんどのお子さんが一度は感染します。
多くは咳や発熱などのかぜ症状ですみますが、
**生後数カ月で感染すると、細気管支炎や肺炎などの
重い症状となる場合があります。**

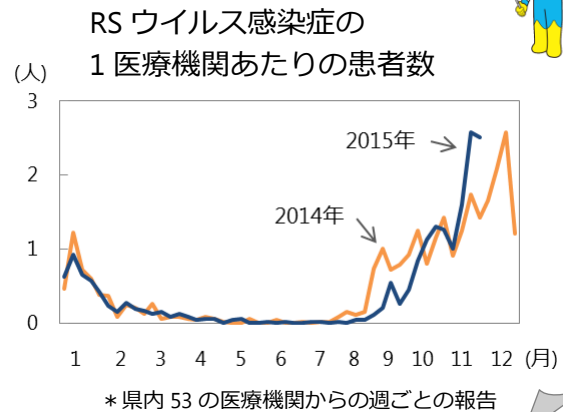
特に注意が必要な人

- 生後3カ月以内の乳児や早産児
- 心臓や肺などに基礎疾患のある幼児

RSウイルスは、高齢者の肺炎の原因としても知られています。



11月に
患者が急増しています。



赤ちゃんの感染を予防しましょう

RSウイルス感染症は、**飛沫感染**と**接触感染**でうつります。

飛沫感染：感染した人の咳やくしゃみで飛び散ったウイルスを吸い込む

接触感染：鼻水などに含まれるウイルスが手やおもちゃを介して鼻や目に入る

RSウイルスは大人にも感染し、かぜ症状をおこします。
大人から赤ちゃんにうつすことのないよう、周りの人が気をつけましょう。

- ✓ かぜをひいている人は、赤ちゃんと接することを控える
- ✓ 咳が出るときはマスクをつけ、咳エチケットを守る
- ✓ 外出の後、調理や食事の前、鼻をかんだ後などは石けんで手を洗う
- ✓ 赤ちゃんが口に入れるおもちゃなどは、アルコールや塩素系消毒剤で消毒する



岐阜県感染症情報センターのホームページもご覧ください

岐阜県 健康 感染症情報

